

市内学校の平和宣言

平成 27 年 11 月 25 日時点

■日枝中学校

『平和の誓い』・・・P2

- ・平成 27 年度の広島への修学旅行の際、「原爆の子の像」前で宣言したもの。

■東山中学校

『平成 27 年度東山中学校平和宣言』・・・P3

- ・平成 27 年度の広島への修学旅行の際、「原爆の子の像」前で宣言したもの。

■丹生川中学校

『丹生川中学校「平和宣言」』・・・P4

- ・広島への修学旅行にあたり、平成 17 年に策定したもの。

■清見中学校

『平成 27 年度 清見中学校 3 年生「平和宣言」』・・・P5

- ・平成 27 年度の広島への修学旅行の際、平和公園にて宣言したもの。

■宮中学校

『わたしたちの平和宣言（修学旅行版）』・・・P6

- ・広島への修学旅行にむけた活動として

『わたしたちの平和宣言（平和サミット版）』・・・P7

- ・高山市平和サミットにむけた活動として

■朝日中学校

『朝日中学校 3 年生「平和宣言」』・・・P8

- ・広島への修学旅行の一環。

■北稜中学校

『平和宣言』・・・P9

- ・広島への修学旅行の一環。

今日は、2015年5月22日。今から70年前に日本で実際に起きたこと...特攻隊で飛び立った若き命。原爆により、真黒焦げになった少年。家の下じきになった家族。この惨な悲劇を二度と繰り返さないためにできること。それは戦争に関わる小さなことをしないこと、ゆるさないこと。戦争に関わる小さなこと。それは、暴力、暴言、いじめのことです。

一人一人が安心して生きられたり、生きている喜びを感じたりできる。そんな世の中にしたい。

本当の平和とは何か。一人一人が思っていることはちがいます。しかし、ちがうからこそ、思いを語り伝えあい共有することが大切です。人と思いを共有すること、それこそが平和へとつながる...そう思いませんか。

今ある平和に感謝し、日枝中学校最高学年としての誇りと、自覚のある毎日を過ごしていきます。

僕達は、被爆者の方々の思いを以て事実などを学びそれを多くの人に伝えていくことが大切です。平和は身近な所から始まるのです。多くの方が生きてくても生きられなかった時間。その時間を生きている僕達にできることは何か。そのことを、本校で考え強く心に念じて、平和を自らの手でつくっていきます。

平成 27年 5月 22日

岐阜県高山市立日枝中学校

平成27年度 東山中学校 平和宣言

私たちが今、歩まなければならない未来への一歩とは。

私たちは今問い続けています。「自分たちに何ができるのか」を。

平成27年度 東山中学校 平和宣言

これまで東山中学校の一員として学んできたこと、そしてこれから私たちが自分たちの誇りとして大切にしたいこと

ひとつ

自ら関わり、自ら行動します。

人に流されない強い意志を貫くことで、自分達の願う生活が築けると信じます。

ひとつ

いじめをなくし、笑顔とやさしさがあふれる未来をつくります。

いじめや差別をなくせば、悲しい思いをする人がいなくなり、笑顔があふれる社会になると信じます。

ひとつ

全員：平和に暮らせていることに感謝し、命を大切に仲間と生きていきます。

家族や周りの人に支えられて生きていることに感謝することで、誰もが笑顔になると信じます。

私たちは今、未来への一歩をふみ出し、平和への願いをつむいでいくために、

A組：過去にどんなことがあったのかを知り、

B組：今の自分を振り返り、自分にできることを考え、

C組：きびしく自分を磨き

D組：今までの自分達を超え

全員：未来を切り拓いていきます！

今はまだ、学校という小さな社会でしか、平和について考えられませんが、自分たちなりに「平和について」真剣に考えていきます。

もう2度と戦争という悲劇を起こさないために。世界中の人々が平和で暮らせる世の中を築くために。

私たちがこれからも平和について考え続け、自ら行動することを誓い、ここに東山中学校平和宣言を宣言します。

いつまでもこの宣言を胸に、私たちは生きていきます。

丹生川中学校 「 平和宣言 」

この平和宣言は、もう二度と戦争の惨禍が起こらないこと、世界中の人々が平和に幸せに暮らせることを願い、丹生川の人々の願いを込めて作成したものである。

私たちは世界で起こっている戦争を止めることはできない。しかし、命の尊さを学び、人を思いやり、世界平和への願いを持ち続けることは可能である。自分自身ができることはなにかを考え追求し、丹生川の平和の願いをこの広島に伝えたい。

一、優しい心を持ち、他人を思いやることに心がけます

一、当たり前前の生活ができるということに感謝の気持ちを持ち、日々の生活を送ります

一、ひとり一人の人権を大切にし、互いに信頼し、助け合っていきます

一、人間が、人間らしく、人間として人生を精一杯生きていける社会を築き上げます

一、歴史を知り、命の尊さを理解し、虐待・いじめ・差別・偏見をなくすことに努めます

以上

平成 17 年 5 月 制定

平成二十七年年度 清見中学校 三年生

『平和宣言』

なぜ、罪のない人々が犠牲になったのでしょうか。原爆が広島に落とされたのは、実験のため、軍事基地があるから、まだ被害を受けていないから。ただそれだけの理由で、多くの人々が犠牲になりました。また、この原爆で数多くの動物も亡くなり、放射能の影響でその後病気になるって亡くなった人も少なくありません。

真の平和とは何なのか。人間や動物、この地球上のたくさんの命を守るために、今、自分にできることは何なのかと私達は考えました。そして、世界の平和と全ての人々の幸せを願い、「ここに、『平和宣言』としてその決意を宣言します。

- 一、真の平和と幸せを願い、真の平和と幸せを守るために、自らの意志をもち、行動します。
- 一、二度と過ちを繰り返さぬために、思いやりの気持ちを忘れず、常に感謝の気持ちをもって行動します。

私達清見中学校生徒は、以上のことを守り、世界の人々が平和に暮らせることを願い、これを清見中学校平和宣言とします。

平成27年度3年生 平和宣言

平成27年5月21日

- () 1945年8月6日午前8時15分 広島に原爆が投下されました。
そして原爆は、かけがえのない人の命を、簡単に奪ってしまいました。
私たちが生まれる前に起こったこの出来事を、私たちは知らなくてはなりません。
この恐ろしい出来事により、たくさんの人の命が奪われ、たくさんの人が悲しい思いや辛い思いをし、心に大きな傷を負うことになりました。

- () 私たちは修学旅行に向けて、平和について学習してきました。広島に投下された原爆によって今もまだ苦しんでいる人たちがいること。その苦しみを乗り越えようと頑張っている人たちがいること。今回の学習を通し、改めて知ることができました。
しかし、世界にはまだ、たくさんの争いや、差別があります。争いにより悲しい・寂しい思い・辛い思いをしている人がたくさんいます。そのことを知るたびに、私たちがどれだけ幸せなのかを実感します。私たちに戦争を止めることは出来ません。だけど、平和を願い、自分たちの周りから平和を作っていくことはできます。そのために、次のことを宣言します。

- () 寂しい思いや悲しい思いをする人をなくす がんばっている仲間の呼びかけに応えます

- () 困っている仲間がいたら、優しく声をかけます

- () 仲間を傷つける言葉や行動を許しません

- () 目標に向かって仲間と協力し合い、仲間との関わりを大切にします

- () 身近なところから差別をなくします

- () 男女、年齢関係なくそれぞれの違いを認め合い、一人ひとりを大切にします

- () 自分と周りの人たちの幸せを願い、自分が自分らしく生きられるように最大限の努力をします

- () 原爆ドームは、当時の姿を残したまま、ここに建っています。私たちはこの戦争を忘れません。そして、今宣言したことを忘れず、私たちの中に生かし続けていきます。いつかこの世界から戦争が無くなり、二度とこのような惨劇が起きないように、そして笑顔があふれる世界になるように、私たちは平和を願い続けます。

平成27年度 宮中学校3年生

わたしたちの平和宣言

() 1945年8月6日午前8時15分、広島の地に、そして、同じく8月9日午前11時2分、長崎の地に原子爆弾が投下されました。人類史上初、なおかつ世界で唯一核兵器がこの日本の2つの都市で実戦使用されたのです。

原爆は、かけがえのないたくさんの人の命を、一瞬にして奪ってしまいました。私たちが生まれる前に起こったこの出来事を、私たちは知らなくてははいけません。この恐ろしい出来事により、たくさんの人が悲しい思いや辛い思いをし、心に大きな傷を負うことになりました。

広島市長の松井一實さんは、「平成27年広島平和宣言」の中で、

「世界には、いまだに1万5千発を超える核兵器が存在し、核保有国等の為政者は、自国中心の考えに陥ったまま、核による威嚇にこだわる言動を繰り返しています。また、核戦争や核爆発に至りかねない数多くの事件や事故が明らかになり、テロリストによる使用も懸念されています。核兵器が存在する限り、いつ誰が被爆者になるか分かりません。」

と話されましたが、この事実を知って私たちは恐怖を感じています。

() 私たちは修学旅行などを通して、平和について学習してきました。広島と長崎に投下された原爆によって、戦後70年が過ぎた今もまだ苦しんでいる人たちがいること。その苦しみを乗り越えようと頑張っている人たちがいること。今回の学習を通し、改めて知ることができました。しかし、世界にはまだ、たくさんの争いや、差別があります。

長崎市長の田上富久さんは、「平成27年長崎平和宣言」の中で、

「若い世代の皆さん、過去の話だと切り捨てずに、未来のあなたの身に起こるかもしれない話だからこそ伝えようとする、平和への思いをしっかりと受け止めてください。「私だったらどうするだろう」と想像してみてください。そして、「平和のために、私にできることは何だろう」と考えてみてください。若い世代の皆さんは、国境を越えて新しい関係を築いていく力を持っています。」

と話されました。私たちに戦争を止めることは出来ません。しかし、平和を願い、自分たちの周りから平和を作っていくことはできます。そのために、次のことを宣言します。

() 原子爆弾や戦争のことをより詳しく知り、全世界が平和となるように自分に置き換えて考え行動し、平和についての意識を高めていきます。

() 寂しい思いや悲しい思いをする人をなくします。がんばっている仲間の呼びかけに応えます。

() 困っている仲間がいたら、優しく声をかけます。仲間を傷つける言葉や行動を許しません。

() 目標に向かって仲間と協力し合い、仲間との関わりを大切にします。

() 男女、年齢関係なくそれぞれの違いを認め合い、一人ひとりを大切にします。

() 自分と周りの人たちの幸せを願い、自分が自分らしく生きられるように最大限の努力をします。

() これからの未来、平和な生活を創るのは私たち若い世代です。自分たち自身です。戦争は他の国で起きていること、過去のことではありません。いつも平和について真剣に考え、次世代に語り継ぎ、私たちの中に生かし続けていきます。いつかこの世界から戦争が無くなり、二度とこのような惨劇が起きないように、そして笑顔があふれる世界になるように、私たち高山市の全ての中学生は平和を願い続け、自分たちの周りから平和を作っていくことを、ここに宣言します。

平成27年度 朝日中学校「広島研修」

朝日中学校3年生「平和宣言」

この平和宣言は、もう二度と戦争の惨禍が起こらないこと、世界中の人々が平和に幸せに暮らせることを願って作成しました。

私たちの力では、世界で起こっている戦争を止めることはできません。しかし、命の尊さを学び、人を思いやり、世界平和への願いを持ち続けることは可能です。自分自身ができることは何かを考え、追求し、平和の願いをこの広島に伝えたいと思います。

- 一、他人を思いやることに心がけ、互いに信頼し、助け合っていきます
- 一、当たり前前の生活ができるということに感謝の気持ちを持ち、日々の生活を送ります
- 一、人間が、人間らしく、精一杯生きていける社会を築きます
- 一、歴史を学び、命の尊さを理解し、いじめ・差別・偏見をなくすことに努めます

以上

平成27月5月

